みなさんと未来を考えるフェニックスセンター★NEWS

i land fill

Vol. 15

Q 埋立処分場の周りにはどんな生き物がいるのだろう?

特集 自然との共生を目指して!

処分場周辺海域は今!

大阪沖埋立処分場周辺海域(マアジの群れ)

魚類飼育水槽(大阪建設事務所)

大阪湾フェニックスセンターは、埋立処分場周辺海域の環境保全・創造に取り組んでおります。例えば、大阪沖埋立処分場では、北護岸、西護岸を直立護岸ではなく、緩い傾斜をつけた緩傾斜石積護岸とすることにより、太陽の光が海底まで届き、良好な藻場が形成されるように工夫しています。既にタマハハキモクなどの藻類の繁茂が観察され、藻場に集まる魚介類の種類や数も増えつつあります。

こうしたセンターの取組みをPRするため、周辺海域に生息している魚たちを大阪建設事務所内に飼育水槽で展示しています。現在飼育している魚は、いたずら好きなクロダイ、とてもおいしい高級魚のキジハタ、毒があるけどユニークなオニオコゼたちです。

当センターでは埋立処分場の定例見学会を実施していますので、見学の際にぜひご覧ください。

そのほか、尼崎沖埋立処分場や泉大津沖埋立処分場では、直立護岸を採用しているため、エコ護岸を設置して藻場や魚類の生息が確認できるようになり、環境改善に着実に成果をあげています。

A. 埋立処分場は緩傾斜護岸を配置しており、藻場の形成に役立っています。藻場には多種多様な生物が生育・生息しており、これまでに海藻60種(アオサ、ワカメなど)、無脊椎動物302種(ムラサキガイ、ナマコなど)、魚類45種(チヌ、アジ、イサキなど)が確認されています。

学ぼう!

子どもたちに大人気! フェニックス講座

前号でも紹介しましたが、大阪湾フェニックスセンターでは、事業の内容・ごみの行方・環境調査・3R活動の重要性などについて、スライドでお話する「フェニックス講座」を実施しています。

昨年10月～11月に大阪府港湾局が主催で、泉大津市の小学生(5年生)を対象に、船に乗って海の上から港湾施設を見学するという「港湾施設見学会」が開催され、当センターは「ごみのゆくえ」と題してフェニックス講座を実施しました。(6校で、延べ711名の児童が参加)

楽しく学習できるように工夫し、クイズのスライドを組み入れたりすると、児童は目を輝かせ元気に手をあげて答えてくれました。数日後、児童からたくさんの感想が寄せられ、「フェニックスの埋立処分場があと11年で満杯になるのには驚いた。埋立処分場を長持ちさせるために、3R活動をがんばる。」というものでしたが、「リサイクルしか知らなかったけれども、リデュース・リユースが覚えられて良かった」とか、「ごみは燃やされて灰として残り、埋立処分場に運ばれるまでの順序がよくわかった」など、児童にとって非常に勉強になったと喜ばれています。

また、センターが基地や埋立処分場の周辺環境の保全・創造にも力を入れていることに対しての感想で、「海を汚さない工夫と、魚の住みやすい環境をつくっていることを学んだ」と環境問題を意識したものもありました。船上での見学の様子を綴った感想が大半ではありましたが、家庭で発生したごみが最終的にどうなっているのか、どんな課題があるのか、勉強の手助けになることができ、これからもフェニックス講座を通して、環境教育にも貢献し続けていこうと改めて感じた勉強会でありました。

大好評を博して環境イベントが終了

当センターは、近畿2府4県168市町村から排出される廃棄物を安定的かつ安全に処理することにより、市民生活の環境保全に大きな役割を果たしています。そこで、府県や市が開催する環境イベントに積極的に参加し、パネル展示やスライドショーをとおして、広くセンター事業の紹介を行ってきました。

平成22年度も8会場、延べ15日間の環境イベントに参加し、3千人を超える皆様にセンター展示ブースでの、アンケートや環境クイズにご参加をいただきました。

そのなかで、「皆さんの家庭からどれだけのごみが出るのか。」、「センター処分場の存続はいつまでか。」、「3R活動がなぜ必要か。」等を認識していただいたものと感じています。しかし、アンケート結果では、センターの知名度は、5割以上の方に知られていないことも分かりました。もっと、「ごみのゆくえ」とともにセンターを多くの方に知っていただく努力が必要と感じています。また、広報誌「i Land Fill vol.14」を皆様にお読みいただいた結果、8割の方から「面白かった」という感想をいただきました。これからも、はりきって誌面作りに励んで行きます。

センターでは、平成23年度も環境イベントに積極的に出展して行きますので、皆様も是非ご参加ください。なお、出展スケジュールにつきましては、決定次第HPに掲載しますので、皆さん要チェックです!

フェニックスセンター　検索

私たちにできるコト

★シリーズ★ ザ・スリーあ～る 3R 第2回 『マイカップでお得』

前号からスタートしたコーナーです。3Rにいろいろな角度からアプローチし、今回は「マイカップ」などにまつわるお得なお話をしたいと思います。

みなさんは、「リデュース」って知っていますか?必要でない物は買わない・使い捨てなどごみになりそうな物は使用しないなど物の量を減らす事、環境負荷や廃棄物の発生を抑制するために無駄・非効率・必要以上の消費・生産を抑制し物の寿命を極力延ばす事です。

Q:私たちにできる事は何だろう?

A: ①使い捨て商品は買わない
②詰め替え商品を選ぶ
③マイバッグ・マイ箸・マイカップを利用

実際にリデュースを推進している企業のサービスを紹介しますと、マイカップやタンブラーを持参すると、**資源節約に協力頂いたお客様として、スターバックス・エクセルシオールでは20円引き、タリーズコーヒーでは30円引きのサービス**があります。

身近なエコ活動をしてみませんか?

このほか、マイボトルを持参すると入れたてのコーヒーやお茶を入れてくれるお店(給茶スポット)もあります。

「給茶スポット」とは、マホービン会社の象印と全国のカフェや日本茶店(全茶連)などが組んで展開してるものでペットボトルではなく水筒を持ち歩いてもらおうとスタートしたものです。ペットボトルで1回飲むたびに捨てるのは「MOTTAINAI(もったいない)」し経済的にも高くつきますね。ただし、料金形態は店によって異なりマチマチです。

近くのお店を「給茶スポット」で検索して、一度トライしてみてはいかがでしょうか。

※詳しくは各ホームページでご確認ください。

神戸市と共同した初めての取組み ごみと資源の出し方ルールブック 「ワケトンBOOK」完成

神戸市は、ごみと資源の分け方・出し方を市民にわかりやすく解説したルールブック「ワケトンBOOK」を作成しています。神戸市のごみと資源の分別方法の説明だけでなく、神戸市のごみの現状を踏まえ、なぜ分別しないといけないのか、どうすればごみの発生を抑制できるのかを説明するとともに、分別後に当センターで最終処分されるまでの処理工程やリサイクル工程までを詳細に紹介しています。

この「ワケトンBOOK」を全世帯(約67万世帯)に配布しています。また、神戸市は、ごみを「燃えるごみ」「燃えないごみ」「大型ごみ」「缶・びん・ペットボトル」「カセットボンベ・スプレー缶」「容器包装プラスチック」の6種類に分別収集し、加えて平成23年4月から「容器包装プラスチック」の分別収集を全市で実施する予定です。こうした市町村と共同した取り組みを通じて、市民の一人ひとりが、「3R」をより一層意識し、ごみの減量資源化に取り組んでもらうことにより、最終処分地のさらなる延命化につながることを願っています。

フェニックスご報告

太陽光発電でCO₂排出量削減

当センターでは、環境管理計画に基づき、昨今問題になっている地球温暖化対策推進の取組みの一つとして、CO_2排出量を削減するために、兵庫建設事務所に引き続き平成22年2月に泉大津沖埋立処分場内廃水処理施設用補助電源として105kWの太陽光発電設備を導入しました。

太陽光発電設備導入後の実績として、平成22年2月から平成23年1月までの一年間の発電量が約127,000kWh/年で、当初設計の想定電力量(約110,000kWh/年)を上回っています。

泉大津沖埋立処分場内廃水処理施設の総使用電力量が約576,000kWh/年なので、その約22%を補っていることになります。また、同期間のCO_2削減量は、33.6t- CO_2です。

泉大津沖埋立処分場

排水処理施設屋上5kW太陽電池モジュール

情報表示ディスプレイ

調整池横100kW太陽電池モジュール

管理型民間産業廃棄物の受入抑制の実施 対平成21年度比3割減

当センターでは、大阪湾圏域広域処理場整備基本計画(基本計画)に基づき、大阪湾圏域(2府4県168市町村)から出る一般廃棄物や産業廃棄物等を尼崎沖、泉大津沖、神戸沖、大阪沖の4処分場で受け入れています。

基本計画では、一般廃棄物や産業廃棄物といった廃棄物の種類ごとに埋立量を定めるとともに、埋立期間などを定めています。

近年、民間の事業者や中間処理業者から搬入される管理型民間産廃(※)の量が大幅に増加しており、今のペースでの搬入が続けば、あと3年程度で計画量に達し、それ以降は管理型民間産廃の受け入れができない状況となっています。

一方、関係自治体で構成される大阪湾広域処理場整備促進協議会では、昨年度、近畿圏の3Rを更に進める必要があることから、大阪湾圏域での廃棄物の減量化目標(一般廃棄物・産業廃棄物の最終処分量を、平成27年度に平成12年度比60%減とする等)を定めました。

その中で、管理型民間産廃については、目標達成のため施策の一つとして、早急に受入量を抑制すべきとの提案がありました。

当センターとしましても、少しでも長く処分場が使えるよう対応することが必要であることから、平成21年度総受入実績量の概ね3割減とする受入抑制を平成23年度から実施することとしました。

フェニックス処分場の現状をご理解いただき、当センターへの搬入量の削減や、減量化・リサイクルの推進について、皆様方のご協力をお願いします。

※管理型民間産廃=「燃え殻」「汚泥A」「汚泥B」「鉱さい」「ばいじん」「シュレッダーダスト」「ASR」「その他の産業廃棄物」

リレーエッセイ

「減装ショッピングとフェニックス処分場」

特定非営利活動法人ごみじゃぱん　代表理事
神戸大学経済学研究科　教授
石川 雅紀（いしかわ まさのぶ）

■プロフィール

・研究分野は環境経済システム分析、LCA、リサイクル、省エネルギー。
・政府、自治体の審議会、委員会においてリサイクル、省エネルギー、温暖化ガス削減、容器包装などに関する専門家として、15年以上活動。

神戸市では、北区でのプラスチック容器包装分別収集のモデル実施の結果を踏まえて、この4月から全区で分別収集を開始します。これは、家庭系廃棄物の中、体積で6割、重量で4分の1を占める容器包装廃棄物の中でも特にかさばるプラスチック容器包装をごみ処理の流れから分離する事が目的です。このためには、市民は分別の手間と保管のスペースを負担し、市は分別収集と選別保管のシステムを整備・運営しなければなりません。市民の手間も市の清掃事業の費用も無視できない負担ですが、それでも分別収集をすすめる理由は、二つあります。一つは、分別収集をすすめることでごみ量が減る事が知られている事です。神戸市でも先行実施したプラスチック容器包装の分別収集など様々な施策の実施によって収集されるごみ量は、平成19年度から平成20年度（11月から6月）を比較して18%減少しています。もう一つは、最終処分場を新しく確保する事がますます困難になってきている事です。

我が国は、居住地として利用できる土地はせまく、最終処分は大きな問題で、70年代には夢の島の最終処分場を巡る東京ごみ戦争、神戸でも昭和40年代にごみ非常事態宣言が宣言されています。焼却する事でごみ量は10%程度まで減量化できますから、これまで焼却施設を全国規模で整備し、焼却する事で最終処分量を減らす対策をすすめてきました。もはや一般廃棄物に関しては燃やせるごみの殆ど全量が焼却されています。

埋立ごみがゼロにならない限り最終処分場は必ず必要ですが、既存の処分場は減る一方です。この当たり前の冷厳な事実の前にこれまで自治体は新規の最終処分場の確保の努力をしてきました。しかし、適地はすでに使われており、社会の環境への関心が高まるとともに予定地周辺の反対が高まり、陸上で新規処分場を確保する事はますます困難になっています。近年新規に確保が進むのは海上処分場のような周辺住民の反対問題がないケースですが海上処分場も水深、漁業、航路の確保の問題があり、新規確保は簡単ではありません。

中間処理による埋立量の削減の余地が無くなっている事、新規の最終処分場の確保が困難であることから、リサイクルによってごみ処理に流入するごみ量を削減する事がすすめられてきましたが、実は、これも大きな問題がある事がわかっています。容器包装の分別収集・選別保管は混合ごみのケースと比較して大きな費用がかかります。一般廃棄物平均で約40円/kgかかっていますが、容器包装廃棄物の場合はかさばる事もあり309円/kg(2003)でした。

生活をする中でごみをゼロにすることは現実的には無理であり、焼却によって埋立量を今以上に削減する余地もなく、リサイクルは費用がかかります。この問題の解決の道は、ごみの発生抑制しかありません。

しかし、ごみの発生抑制も簡単ではありません。実際、容器包装リサイクル法の施行以来リサイクルは進みましたが、容器包装の排出抑制は進んでいません。容器包装には、（1）中身の保護、（2）輸送、（3）使いやすいサイズへの小分け、（4）商品名、製造者名、成分表示、消費期限などの情報表示、（5）販売促進等の機能がありそれぞれ必要な理由があるため自然に減る事はありません。この中でも（1）から（4）の機能は欠かすことはできない必須の機能ですが、（5）販売促進機能は、生活者が簡易な容器包装がごみ減量という社会的な課題の解決につながる事を認識すれば簡易な包装の商品を選択する可能性があります。簡易な包装はコストが低いため、簡易な包装の商品が売れさえすればメーカーにとってもメリットがあります。

特定非営利活動法人ごみじゃぱんは、2007年より、容器包装が簡易な商品を選定し、商品棚で特別なラベルで容器包装が簡易である事を消費者に示し、キャンペーンによって実際に推奨された商品が約10%多く売れる事を実証してきました。昨年からはこの活動を全国に広げることを目標として、生活者との連携を深める活動を神戸市内で展開しています。

ご興味をもたれた方は次のweb siteをご覧ください。
http://gomi-jp.com/

編集後記

環境に対する意識は、地域の皆さんやご家庭にかなり浸透してきていると思いますが、家庭から出たごみが、どこへ運ばれて、どのように処理されているかは、あまり知られていないかもしれません。フェニックス最終埋立処分場を大切に使っていただくために、ごみを減らすこと、すなわち皆さんのご協力が必要になってくるわけですが、たとえば、皆さんの努力がどのような効果を生んでいるのかを知れば、ごみ減量の輪が広がりを見せ、もっと浸透していくのではないかと考えられるわけです。

効果を知っていただくという意味では、意義のある情報発信を心がけて、今後も広報誌の発行にあたっていきたいと思っています。ご意見ご感想がございましたら、右記のE-mailアドレスまでお寄せください。

（編集スタッフ一同）

i land fill Vol.15

発行：大阪湾広域臨海環境整備センター
フェニックスセンター　検索
http://www.osakawan-center.or.jp
〒530-0005
大阪市北区中之島2-2-2　大阪中之島ビル9階
TEL　06-6204-1721（代）
FAX　06-6204-1728
E-mail　phoenix@osakawan-center.or.jp
i Land Fill は当センターホームページにも掲載しております。

VEGETABLE OIL INK　2011.03